

■ 3歳からの絵本

どんなことにも好奇心いっぱいな年齢。生活の中の経験が増え、言葉がどんどん豊かになり、物語の世界に入り込むことができるようになります。単純なストーリーの絵本を選んでみましょう。



『おおきなかぶ』

おじいさんがかぶを植えました。大きくなったかぶは、とても一人では抜けません。皆で引っばって、「うんとこしょ、どっこいしょ」。やっとかぶは抜けました。繰り返して出てくるかけ声で子どもと遊べるロシアの民話です。

内田莉莎子／再話 佐藤忠良／絵 福音館書店 1966年



『ぐりとぐら』

野ねずみのぐりとぐらは、森で大きな卵を見つけました。何を作ろう？ 粉を混ぜて、フライパンで焼いて大きいカステラのできあがり。森の動物たちと一緒に食べました。『ぐりとぐら』シリーズで他にも色々な本があります。

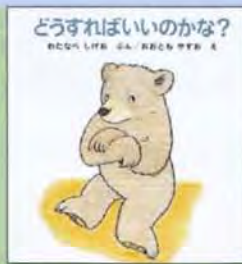
中川李枝子／さく 大村百合子／え 福音館書店 1980年



『ぞうくんのさんぽ』

力持ちのぞうくんが背中に友達のかばくん、わにくん、かめくんを乗せておさんぽ。おっと、ぞうくんがよろけて、池の中にどっぽーん！ 水の中も気持ちよくなってみんなごきげん。ゆかいなさんぽを楽しみましょう！

なかのひろたか／さく・え なかのまさたか／レタリング 福音館書店 1968年



『どうすればいいのかな？』

くまくんが服を着ようとして困っています。あれあれ、Tシャツをはいてしまいました。いったいどうすればいいのかな？ そうそう、頭からかぶって着ればいいだね。皆もくまくんみたいに、上手に服が着られるかな？

わたなべしげお／ぶん おおともやすお／え 福音館書店 1977年



『はらぺこあおむし』

ちっちゃな卵から生まれた、ちっほけなあおむし。お腹がぺこぺこだったので、リンゴを1つに梨を2つ、ケーキにソーセージ、どんどん食べて大きくなっていき…。食べ物がずらりと並んで楽しい、色鮮やかな絵本です。

エリック=カール／作・絵 もりひさし／訳 偕成社 1979年



『みんなうんち』

ぞうのうんちはどなんうんちかな？ ヘビってどこからうんちするんだろう？ えっ、鹿は歩きながらうんち？ 生きているものが必ずするうんち。汚いなんて言わずに、うんちの不思議、おもしろさを子どもと一緒に発見しましょう！

五味太郎／さく 福音館書店 1981年



『もけらもけら』

ジャズピアニストの山下洋輔と、モダンアートの元永定正がコラボした絵本です。「もけらもけら」「でけでけ」リズムカルに読んでみましょう。絵本から不思議な形が、色が、言葉が飛び出し、イメージが湧き上がってきます。

山下洋輔／ぶん 元永定正／え 中辻悦子／構成 福音館書店 1990年

■ 4～5歳からの絵本

物語を聞くことが大好きな年齢です。文字は読めても言葉をすらすら理解できない子もいるので読みきかせを続け、耳から想像する力を育てましょう。



『からすのパンやさん』

からすのパンやさんに4羽の赤ちゃんが誕生し、パパとママは子育てに大忙し。4羽は大きくなるとお店を手伝い、飛行機パン、バイオリンパン…変わった形の楽しいパンを売り出してお店は大繁盛！食べたいパンはどれ？

かこさとし／絵と文 偕成社 1973年



『三びきのやぎの がらがらどん』

3匹のやぎ vs. トロルの知恵と力のバトルを描いたノルウェーの昔話。どうなるのかとハラハラどきどきしながら聞いていた子どもたちは、めでたしめでたしの結末にホッとして大満足。何度も読んでもらいたがる絵本です。

マーシャ・ブラウン／え せたていじ／やく 福音館書店 1965年



『だいくとおにろく』

大きな川に橋をかける難しい工事を頼まれた大工が思案していると、鬼が助っ人を申し出て橋は完成。鬼は見返りとして「目玉を寄こすか、俺の名前を当てろ」と言います。鬼の名前はいいたい!? 日本の昔話絵本です。

松居直／再話 赤羽末吉／画 福音館書店 1962年



『てぶくろ』

森のねずみが手袋を見つけ、その中で暮らすことにしました。かえるにうさぎ、いのしし…次々にやってきて、手袋はもうぎゅうぎゅう。そこへくまがやってきました。手袋はどうなってしまうのでしょうか？ ウクライナのお話です。

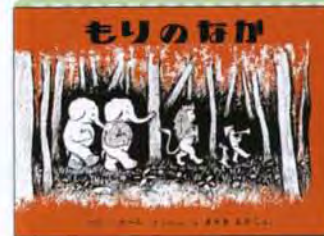
エウゲーニー・M・ラチョフ／え うちだりさこ／やく 福音館書店 1965年



『はなのあなのはなし』

ぼくの鼻の穴は、あつこちゃんのより大きい。おじいちゃんのはもっと大きい。形は色々だけど、息をする役目なのは皆同じ。なぜ鼻毛が生えているの？ 鼻の中はどうなっているの？ 鼻の穴をしっかりとふくらませて読んでください。

やぎゅうげんいちろう／さく 福音館書店 1992年



『もりのなか』

ぼくが森へ散歩に出かけると、ライオンがついてきました。森の中を進むうちに仲間が増えて、ラッパを吹いたり手をたたいたり、散歩がにぎやかに。あっ、お父さんが迎えにきたから帰ろうと。また散歩に来るね！ 続きは『またもりへ』をどうぞ。

マリー・ホール・エッツ／ぶん・え まさきりこ／やく 福音館書店 1980年



『よかったね ネットくん』

パーティーに招待されたネットくんは目的地に向かいますが、飛行機が爆発したり、サメやトラに追いかけられたり、災難ばかり。無事、パーティー会場に行けるでしょうか？ ネットくんと一緒に運命を切り開きましょう！

レミー・チャーリップ／作 八木田宣子／訳 偕成社 1969年

■こんなときは

赤ちゃん絵本に関するQ & A

Q 「読み聞かせ」って
どんなふうにするればいいの？

A 子どもを膝に抱っこして、子どもと同じ目線で絵本を読んであげると良いでしょう。大きくなってきたらお布団の中で読むのもひとつの方法です。心をこめてゆっくり読んであげれば、上手下手は気にしなくても大丈夫ですよ。



Q 何歳頃から始めればいいのか、
何冊くらい読んだらいいかわからない。

A 何歳から、1日に何冊という決まりはありません。本に興味を持ち始める時期には個人差があるので、赤ちゃんの機嫌が良い時をねらって試してみてください。読み聞かせは親子のコミュニケーション手段のひとつですから、肩の力を抜いて楽しみましょう！



Q 父親が絵本を読んであげても
いいのかな。

A 赤ちゃんはどうしてもママと一緒にいる時間が多くなりますが、パパも積極的に赤ちゃんと遊んでください。男の人の声には独特の響きもありますし、お風呂前や就寝前など、絵本を通じて幸せなひとときを過ごせると良いですね。



Q 何度も同じ本を読みたがり
ます。変でしょうか…

A 子どもは、ページをめくって知っている場面が出てくると安心し、次に何が出てくるか想像して楽しむものです。子どもと一緒に楽しみ、満足するまで読んであげてください。



Q 最初から読まなかったり、読んでる途中でページ
をめくっちゃう。本に興味がないみたいだけど？

A 月齢が低いうちや初めのうちは、反応がなかったり落ち着いて聞けないことが多いようです。ページをめくるのが楽しいのかもしれませんが、お気に入りのページがあるのかもしれませんが、赤ちゃんが本に興味を示さない時は無理に読まずに、場所や日を変えて再チャレンジしてみましょう。



Q のりものの本にしか興味を
示さないのが不安です。

A 何か好きなものがあるのは素敵なことです。図鑑が好きなら、写真や図の質の良い読みやすい本を選んで、子どもの興味を満たしてあげることが大切です。

Q 忙しくて読んであげるヒマがありません。

A 絵本1冊を読むのにかかる時間はそれほど長くありません。就寝前など時間を決めて、赤ちゃんとお過ごしはいかがでしょうか。

■親子でわらべうた遊びをしましょう!

わらべうたは、赤ちゃん和大人のきずなを深める魔法の遊びです。

おむつを替える時、あやす時、寝かせる時に、歌って一緒に遊んでみましょう。大好きなママやパパの声を聞き、ふれあった赤ちゃんは、うれしくてにこにこします。

日本語の音やリズムをたっぷり楽しんで、言葉の扉を開きましょう。

いちり にり さんり

♪いちり にり さんり しりしりしりしり!

①いちり

両足の親指をつかむ



②にり

両足の足首をつかむ



③さんり

両足のひざをつかむ



④しりしりしりしり!

おしりの両側をくすぐる



遊び方

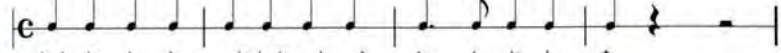
- ・「しりしりしりしり!」でこちょこちょとくすぐる遊びです。
- ・赤ちゃんは体にさわられると喜びます。おむつを替える時や、着替えの時に遊んでみましょう。
- ・メロディーはありません。リズムカルに唱えながらさわりましょう。
- ・くすぐられるのを嫌がる場合もあります。子どもの様子を見ながらやってみましょう。
- ・少し大きくなると「もうすぐおしりをくすぐられる!」と子どもはわくわくしながら待ち受けます。

おやゆびねむれ

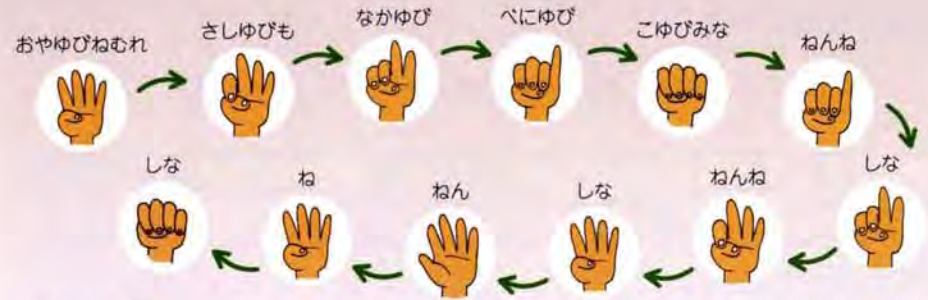
♪おやゆびねむれ さしゆびも なかゆびべにゆび こゆびみな
ねんねしな ねんねしな ねんねしな



おやゆびねむれ さしゆびも なかゆびべにゆび こゆびみな



ねんねしな ねんねしな ねんねしな



遊び方

- ・赤ちゃんを後ろから抱き、片方の手を持ちます。
- ・歌いながら指をやさしくつまんで折り曲げたり伸ばしたりしましょう。
- ・赤ちゃんは手を握られるだけでも安心しますし、ゆったり歌うともっとリラックスします。お昼寝前に歌ってもOK。

うまはとしとし

♪うまはとしとし ないてもつよい

うまはつよいから のりてさんもつよい!(ばかっ ばかっ)

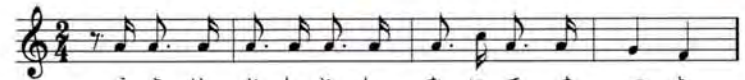
①うまはとしとし ないてもつよい うまはつよいから のりてさんもつよい

座って子どもをひざに乗せ、
馬に乗っているように上下に揺らす

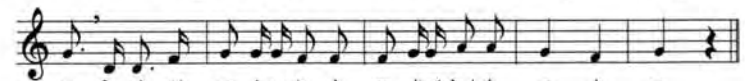


②ばかっ ばかっ

ひざを開いて
ストンと落とす



うまは としとし ないても つよ



い、うまは つよいから のりてさんも つよい

遊び方

- ・2歳ぐらいから遊べます。1~2歳の子どもは、脇の下をしっかり支えて遊ばせましょう。
- ・リズムカルに歌いながら、馬に乗っているように弾ませましょう。
- ・「のりてさん」の部分子ども名前に変えて「○○ちゃんもつよい」と歌うと喜びます。
- ・「ばかっ ばかっ」の部分は喜ぶ子どもが多いですが、怖がるようなら上下に揺らすだけにしましょう。
- ・アレンジで、子どもをおんぶして歌いながら駆け足で走ってみましょう。「ばかっ ばかっ」でジャンプ!